

令和4年度《園評価・自己評価》認定こども園 鈴ノ宮保育園

「たくましく生きる力を育む」を基に自ら考え判断する子・心身ともに健康な子・感謝と思いやりを持つ子・食べ物を大切にし、好き嫌いなく食べる子を目標に良識ある人間を育てる基礎づくりをしています。一人ひとりの育ちを大切にする教育・保育、年齢は同じであっても育ちは違い、そういった一人ひとりの育ちを大切にする教育・保育を実践しています。

・教育・保育について

感染症対策に気を付けながら、教育・保育を行ってきました。クラス単位で行動・保育する事が多い中で少しずつ行事での縦割りや合同で行うことを増やし、異年齢児で過ごすことも増え、クラスに応じた友だちとの関わりを大切にしながら遊びを通して自ら学び意欲的に取り組んでいけるように目指しました。

その中で、環境保育について・玩具の見直し・「幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿」を保護者に伝わりやすく発信することや、各年齢クラスのつながりを大切に子どもの成長を理解しながら保育の質が落ちないように職員全体で共有しながら進めていく課題が見つかりました。

・小学校との連携について

小学校との交流は徐々に戻りつつありました。交流会やおもちゃランドなどの招待をして頂いたり、ハロウィン・お花渡し等、校区の小学校へ行くこともでき子ども達も小学校への期待を持ち安心して学校へ行く事ができました。

また、幼保小との合同研修会もあり各小学校と個別に連携し情報共有することができました。令和5年度は、また新しい連携の仕方について検討し話し合う機会を持ちたいです。

・地域交流・子育て支援について

感染症のため地域との交流の機会が減少しました。その中でも、園庭開放は例年通りの取り組みはしていますが年々参加が少なくなっているのを感じ、園でしか体験出来ない内容を検討し、進めていく事を考えています。

近隣との関わりも商店街が閉店していく中で減少傾向にあります。来年度は行事の招待が出来るようになる事で、地域との関わりも増えることを期待し、地域親子の居場所になれたらと思います。

・保護者支援・子ども支援について

保護者に対しては、クラスだより・可視化・ホームページ・よいこネットなどを通じて情報を発信していきました。また、日頃からコミュニケーションをとるように心がけ、問題が発生した時もその都度迅速な対応をすることで大きな問題もない一年でした。

また、よりよい関係を持てるように言葉使いや挨拶など見直す点もありました。守秘義務についても職員に何度も伝達し徹底に努めるように伝えていきました。

子ども支援についてはその都度、機関と連携して相談し進め、丁寧な連絡をとることで対応する事ができました。

・職員の資質向上について

研修はオンライン研修もスムーズに行え、対面研修も少しずつ増えそれぞれの利点を生かした参加の仕方が出来るようになりました。

研修をする中で、職員の子どもに対しての支援の仕方や関わり方・ヒヤリハットなどお互いの意見交換を行って質の向上を努めてきましたが、実践につなげる意識がうすいように感じました。実践に繋げていけるように職員全体が共通の理解をしていくことで、一人ひとりの資質が向上していくのではと考えます。特に重大事故のつながりやすい事案は何度も繰り返し周知し取り組んでいく案件です。

また、救急対応などの対処方法はとくに実践的な研修を通じて事故防止に取り組む事が課題です。

・安全への取り組み・健康について

安全については、火災・地震・不審者・水害の避難訓練を、場所などの設定を変え実施しました。指定避難場所に全員で確認のため歩きましたが、日頃から歩くことが少なくなってきた子どもたちの体力不足を感じました。また、周囲の工事も終わり避難経路の見直しを検討してより安全に避難できるように作成していきました。

遊具の使い方・クラス安全点検の見直し・散歩のコースの確認など専門委員が主となり取り組みました。その中で不審者対応・緊急時対応など見直しや気付きがあり、再確認する園内研修を行いました。

健康に対しては換気、手洗いに気を付けて前年度同様、感染症対策をしていき感染拡大の予防繋げていきました。

今年度も子どもたち一人ひとりが安心して園生活を送ることが出来る様、職員間で連携を持ち柔軟な対応をしながら、教育・保育を進めていきました。沢山の経験や体験を通して子どもたちは成長していましたが、次年度も子ども達の一人ひとりの育ちを大切にし人権を尊重した教育・保育を進めていきます。

園長 中辻 美紀